メモ・ランダム

上水敬由

七月二十一日、熊本市動植物園のマサイキリンの小春（十一歳、雌）が死んだ。

昨年十月四日に死んだリキ（九歳、雄）との間にできた子を身ごもっており、帝王切開を試みたが、母子ともに助からなかった。

一昨年十月二日、国内最高齢であったラン（二十二歳、雌）が死に、昨年十一月一日には、リキとランの子冬真（雄）が宮崎市フェニックス動物園に繁殖目的で貸し出されていたので、小春の子秋平（雄）はひとりぼっちになった。

小春も臆病者だったリキも、人間に換算すると三十代の壮年期にあたり、死ぬにはまだ早すぎるので、死因はキリン特有の「突然死症候群」ではないか、また今夏の猛暑もその引き金になったのではないかとみられている。

震災によって傷だらけになった園内は、主要な動物が各地に疎開したり、路面が見学者の歩行には危険と判断されたりしたため、土日祝日に一部公開されるようになっただけで、平日には人影も絶えて、工事車両が騒音を立てながら行き交うばかりだ。

これは勝手な想像だが、突然の地震とその後に続いた余震などから受けた大きなストレスが、それはいきなり襲ってくる不安感や寂寥感だが、結果として彼らの寿命を縮めたのではないだろうか。

あるいは、これもいわゆる「震災関連死」のひとつとして数えるべきなのかもしれない。

などといったこととは無関係な話をする。

＊

以前、筑豊盆地の南隅に住んでいたことがある。

いまは飯塚市に含まれているが、当時は「平成の大合併」の前で、嘉穂郡筑穂町といっていた。

我が家のある集落は、町の中心部からすこしばかり外れていて、すぐ裏手には田畑が広がり、遠くに筑豊本線をのんびりと上下する列車が見える。

亡き母によれば、ある夏の夕刻、庭で花の手入れをしているときに、裏手の板塀に沿って、ゴムまりほどの大きさの火の玉がふわふわ飛んでいったのだそうだ。

母は気丈なたちで、牛深の海軍補給所にいた頃には、米軍の戦闘機の機銃掃射の下を子供たちの手を引いて逃げ回った経験もある。

「グラマンが二機で行ったり来たりして、タンクに火がつくまで、本当にしつこかったよ」

火の玉くらいで驚くわけがない。

そういえば、三軒先の家で先日不幸があったらしいと聞いていた。

それと火の玉に何か関係があるかどうかはわからない。

裏手の田畑は我が家の西方に当たっていて、彼方の三郡山に陽が落ちかかる頃合いだ。

ひょっとすると、小さな蚊柱に夕日が差していただけなのかもしれないが、今となっては確かめようがない。

火の玉の話はこれで終わり。

＊

妻の実家は、西南戦争で有名になった「田原坂」のふもとにある。

当時実家にいた義妹が、熊本市内の病院に管理栄養士として勤務していた頃だから二十数年前になるが、夜間、仕事を終えて帰宅する途中にＵＦＯを見た。

現場は、国道三号線から植木で玉名方面に折れて、田原坂の脇を下っていく暗い谷あい。

運転していたクルマの上を多数の大きなＵＦＯが前方に向けて飛び去っていったという。

翌日の新聞数紙の地方欄に、玉名から福岡にかけて多くの目撃談が掲載されていたので、義妹だけの何かの見間違いということでは（たぶん）ないだろう。

義妹は職業柄もあり、目撃をおもしろがっていただけで、宇宙人から襲われるなどといった、意味もない恐れを抱くようなことは、当然なかった。

ＵＦＯは「未確認飛行物体」の略称だから、誰からも確認されたわけではないし、そもそも「物体」であることすら怪しいという代物だ。

それは置いておき、あらためて考えてみると流れ星の可能性が高いようで、最近よく取り上げられる「火球」のたぐいかもしれない。

あるいは、誰かがうっかり上げてしまった小型の気球が風に流されたという可能性も（ありそうもないことだが）ないことはない。

大きく見えたのは、山の月が大きく見えるのと同じ錯覚で、多数というのも、驚きから生じた勘違いかもしれない。

いずれにしろ、正体は不明だが、義妹がなにがしかの現象を上空に見た（と思った）ということは確かなようだ。

ＵＦＯの話もこれで終わり。

＊

いつ始まったかはっきりとは覚えていないが、幼い頃からときどきボンヤリする（変な言い方だが）癖があった。

たとえば教室の隅で、授業を受けている最中に、左右の目の焦点を意識するでもなくずらしていると、心がどこかをさまよっているような状態になる。

そんなときに、いつもではないが、なにかの場面が自然に

浮かんでくることがある。
それはまったく見知らぬ場所で、あったこともない人物と、どういういきさつでか、自分がそこにいるというイメージ。
わずかな時間でその場面は消えてしまうし、なにか劇的な事件が起こるわけでもないので、じきに忘れてしまうのだが、なぜか数年後にそれが現実のものとなる。
そのときには、以前に確かに見た場面だと認識するのだが、だからといって何かの役に立つわけでもないから、やはりその内容をじきに忘れてしまう。
予知夢というほど明確なものではないし、どちらかといえばデジャヴに近いと思うが、役に立たなさかげんは、まあ何とも言いようがない。
年齢が高くなってからもときどきは見ていたが、あるとき嫌な思いをしたので、それからなるべく意識して、場面が浮かぶと同時に頭から振り消すようにしていると、だんだん見なくなった（ように思う）。
そもそも、いつ起きるかという一番肝心な点が不明なので、対処のしようがないのだから。
できるだけ楽な気持ちで毎日を過ごしたいと思うのだ。
これも、デジャヴについてのよくある説明と同じく、時の流れの前後関係を逆転させてしまうという、奇妙な脳の働きによるものだと解釈できるかもしれないが、どうもそれだけではないような気もする。
本人にとっては、どちらでもいいことだが。

デジャヴの話もこれで終わり。

＊

最後に付け足し。
最近になって、中国などからＵＦＯ関係の目撃情報がネットに流れてきた。
近頃はこういうもっともらしい画像が誰でも簡単に作れるので、報告も昔に比べるとずいぶん増えているらしい。
中には出来のいいものがあって、世の物好きを結構喜ばせているようだ。
もうひとつ、熊本市動植物園の補修工事の見通しがついて、年末にはめでたく全面再開されることになった。
他所に行っていた猛獣たちも帰ってきたので、少しずつ以前のにぎわいを取り戻すことだろう。